

## 第2回鎌倉市市民活動センター指定管理者選定委員会 議事概要

開催日時：令和3年（2021年）9月29日（水）13時30分～16時30分

場所：402会議室

出席者：【委員】土屋委員長、相川副委員長、石渡委員、丸尾委員、矢野委員

【事務局】齋藤部長、荻田課長補佐、加藤職員、小池職員

【発表者】特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営会議（以下「受付番号1」という。）、株式会社あゆみの（以下「受付番号2」という。）

【傍聴者】3名

### 1. 冒頭

(1) 部長挨拶

(2) 事務局説明：本日の流れ

(3) 傍聴者入室（待機時に事務局から注意事項説明）

### 2. 指定管理応募者（2団体）から、プレゼンテーション及び質疑

(1) 受付番号1入室。プレゼンテーション及び質疑の実施。

#### 【プレゼンテーション概要】

- ・「わをつなぎ、わを広げる」をスローガンとして活動してきた。今後は、これを更に具体化して「つながりを強め、つながりを広げる」を合言葉にして活動していきたい。
- ・鎌倉市の市民活動の歴史について説明。
- ・登録団体にコンタクトをとり活動の内容を確認し、データベースを作成した。HPもリニューアルした。
- ・登録団体と協働し、様々な関わり方で事業実施やコーディネートを行ってきた。
- ・団体ニーズを踏まえ、センター会議室以外のミーティングスペース、展示スペースの開拓を行ってきた。
- ・Webサイトや広報誌を使った団体活動等の紹介を行ってきた。
- ・ICT活用講座等団体支援講座の企画・開催を行ってきた。
- ・2001年からかまくらファンドという独自の基金を運用しており、21年間延べ100団体総額971万円の事業活動支援を行ってきた。原資は法人への寄付や会員の会費を充てている。
- ・市内の高校と連携し、3年間で約200名の高校生ボランティアと団体をつないだ。
- ・転入者向けの市民活動案内パンフレットを作成し、2000部を配布した。
- ・ラジオやタウン紙等マスメディアを使って常に市民活動の紹介をしてきた。
- ・個人のボランティア希望者と団体をつないできた。
- ・フェスティバルや懇話会を活用し、団体間の交流や事業連携を積極的に推進してきた。

- ・県との協働によるパートナーシップミーティングによりマッチングの機会を創出してきた。
- ・仕様書に定める配置人員だけではなく、法人から選出したコーディネーター、専門相談員、法人の各部会が複合的に関わり運営を支えている。
- ・①市民参加に資する新たな担い手の発掘、②コーディネートによる新たなつながりの創出、③ネットワークによる多様なセクター間の連携、に取り組んで行く。
- ・若者に対しての市民活動へのアプローチを強化していく。
- ・団体間をつなぐコーディネーターとしての役割を果たしていく。
- ・小さな団体など、やる気があっても「人・モノ・金」が不十分なケースがあり、適切な社会資源のコーディネート、アドバイスをこれからのセンターの役割として行っていく。
- ・市民活動のネットワークを維持するためには、まず活動の見える化を促進する必要がある。そのためにセンターのHPを十二分に活用していく。
- ・多様なセクターに働きかけ、ネットワーク化を図っていく。
- ・その先の段階として、多様なセクターが参加するプラットフォームの創設を進めていく。
- ・3年後の鎌倉では市民活動に関わる人が増え、活力ある市民活動が展開されていくことを約束する。

#### 【質疑応答】

委員：令和3年度の法人の収支予算書の中で「センター管理事業収益」「自主事業収益」とあるが、指定管理と自主事業ですみ分けて処理されているのか。

受付番号1：指定管理業務のほかに、団体として自主事業を行っている。自主事業の中で収益を出すこともある。NPOなので、その収益はNPO事業に使う。

委員：金額が大きく異なるが、どちらの方が儲かるか。

受付番号1：指定管理事業は基本的に儲からない。指定管理料を有益に使うということなので。自主事業の中で、多少の収益を上げて、法人のミッションである市民活動支援に使っている。

委員：募集要項の中で指定管理者に特に求めるものが示されている。この2点への取り組みについて説明していただきたい。

受付番号1：事業計画書の(1)指定管理業務ク、(3)組織及び職員エ(イ)でコーディネートについては記載している。会員及び利用登録団体からコーディネーターを5名位選定して、市民活動センターの中に配置しようと考えている。ICTについては、既にZoom講習を何回もやっている。私たち自身もZoomによる会議を数回実施している。これをてこにして、更に段階を進めて継続していく。また、物理的にNPOセンターのネット回線を増やして十分に活用できるようにする。その上で、現在はHPをリニューアルし、Facebookで情報を発信しているが、それをさらに一歩進め、テーマ別にプラットフォームを作り、活動を伝えるサイトを作る。また、テーマに合わせて、LINE、Instagram等も活用し

ていく予定。また、「ちょっと相談」として、10月から個別の相談の場を設けている。来年度はセミナーと個別相談を交互に実施していく形になる。

委員：人件費について最低賃金で見積もっていると思うが、高度な仕事をする人への対価を考えると、常勤の方はボランティアシップで引き受けていただいているのかなと感じた。常勤、専門スタッフ、ICT担当者等の実際の人数等を教えてもらいたい。

受付番号1：組織図のとおり。非常勤は13名おり、シフトを組んで常駐の人数を回している。またその他に専門相談員として5名委嘱しており、今後、コーディネーターを5名委嘱する予定。そのほか、例えばパソコンのセキュリティを強化するため等特別な課題が生じた場合は、その業務に詳しい人に委嘱、委託などでマンパワーを確保している。今後はICTに強い人材も必ず配置する。仕様上は最低月1回となっているが、週1回は配置する体制とする。指定管理料の範囲内で行っている。

委員：会費収入は安定した収入源だと思うが、減ってきている。これは会員が減っているということか。もう1点、コーディネーターの配置が今後の追加要素として提案されているが、それは予算案のどこに数字として表れているか。

受付番号1：会員数はほぼ横ばい、やや減少気味というところ。会費の回収に苦勞しており、未収分がある。法人の予算案はその余裕をみている。また、決算から予算で寄付が減っているのは、昨年度企業寄付をいただいたが、それは予算には含めていないということ。

委員：そういうことではなく、これから色々と事業を行う中で費用はかかると思うが、それが予算案のどこに反映されているのかを伺いたい。

受付番号1：ほぼ事業費の中で考えている。どういうことが発生するのは現時点ではわからない。

委員：収益の方のどこに反映されているかを伺いたい。コーディネートの費用に該当する収益はないということか。

受付番号1：収益には入っていない。補足すると、自主事業の目的は「市民活動支援」なので、指定管理業務について指定管理料で賄えない部分については、自主事業で稼いで、そこで補填をしていく面がある。

委員：予約方法で、インターネットの導入を図るとあるが、令和4年度から予定をしているか。

受付番号1：現在もメールによる予約は受け付けている。それを一歩進めてフォーム形式での入力も考えている。そこから先の生涯学習センターのような予約方法が本当に必要なかどうか、登録団体がそれを好まれるのかどうかについては、現在ニーズ調査をしているところ。現場にいる感覚としてはあまり望まれていないという感覚がある。活動が終わった時に、次の予約を対面で行っていくというのが今のNPOセンターのスタイルのようだと感じている。完全にネット予約に切り替えるのは、調査の結果が出てからにはなるが、そこまではいかないの

かなという感触もある。アプリを入れてそこに変えることは可能。そこはよく聞きたいと思う。インターネット予約の移行は、フォーム入力による予約まではやるということ。

委員：指定管理料が上がっていない中で、提案されている事業を実施するにあたり、どこを削減して、どこを増額しているのかが見えないので教えていただきたい。

受付番号1：予約システムにアプリを入れた場合、詳しいスタッフがいるため、費用はほとんどかからない。無料に近いアプリがあるのでそれを利用する。フォームを作ったりする部分は事業費の中でカバーできると考えている。ICTに詳しいスタッフや登録団体で協力してくださる方がいるので、そういったところをお願いしつつやりくりしていく。

委員：プレゼンを受けて何をやりたいかというのがわかったが、事業計画書にそれが全然反映されていない。また、これからコーディネートとICTに強い人に協力をお願いするということだが、それは現実的に可能なのか伺いたい。

受付番号1：Zoom講座はスタッフ12名の中で講師を行い、外部の人にアシスタントをお願いして2人体制で行う。専門相談はすでに発足しており、社会保険労務士、税理士、中小企業診断士、理事長、事務局長5人で対応している。

委員：その5人がコーディネートを担当するということか。

受付番号1：この5人は専門相談員。コーディネートはここには書いていないが、2人はほぼ決まっており、残り3人はたくさんの候補の中からこれから絞っていくところ。コーディネーターに対してはどういう報酬を払ったらいいか検討中。

受付番号1：私たちの団体の中に専門家がいるので、そういった方々に報酬を支払いらせていく。

受付番号1：申請書については、指定された様式で項目ごとに記載したため殺風景に捉えられたと思うが、仕様書業務内容のク・ケ・コの部分は力を入れて書いている。感情を入れないように書いたので、次回以降があれば書き方は検討したい。

委員：参加機会の創出について伺いたい。学生は中学生や小学生も含まれるか。

受付番号1：高校生を中心ということだが、中高一貫だと中学生も含まれることがある。小学生は保護者同伴ということもあり、ひとりで参加するのが難しい。

委員：高校生は参加する側だけではなく、自分たちでNPOを立ち上げようといったことはあるのか。

受付番号1：最近はそういった動きがある。そこへのサポートも行っている。

委員：事業計画を中期計画、年度計画として立てているのはいいと思う。

委員：以上で質疑を終了する。

(受付番号1退出)

(2) 受付番号2入室。プレゼンテーション及び質疑の実施。

【プレゼンテーション概要】

- ・ ゆっくり歩く人もいれば早く歩く人もいて、その歩みに丁寧に寄り添いながら、一対一で向き合うだけだと人が変わらないので、暮らしの中だったりコミュニティ・地域の中で色々な場を作る中で人が変化していく、万の縁をおつなぎする、ということをやっている。自分自身もそういったつながりに活かされてきたので、それを社会に対してもやっていきたい。
- ・ 主な事業としては、コーチング事業、イベント・コーディネート事業、研修・プログラム事業、面で拠点コミュニティ運営を行い、点と面の両方の事業を行っている。
- ・ 市民活動センターの類似事例としては、2019年11月から神奈川県やカヤックが運営している起業支援拠点 HATSU 鎌倉の主に運営や設計、地域のコミュニティ運営やプログラム設計の部分で関わってきた。
- ・ その中で企業、学生、行政、大学と連携した事業をいくつもやっている。
- ・ 現在も10プロジェクト以上動いているが、そこには多様なキャリア、多様な専門性を持ったメンバーをプロジェクトごとにコーディネートし、それぞれの想いや経験を活かす形でプロジェクトを実行している。
- ・ 「地域課題の解決」「理想のまちづくりの実現」を目指す中で、市民活動センターの役割として「市と市民のそれぞれの強みを生かしたつながりを生み、新たな公共サービスを創出すること」「市民自身の自発性、主体性を伴う形で実行されていること」の二つを考えており、これを意識してセンター運営を行っていききたい。
- ・ 現場に出たの「生の情報収集」を大切にしていきたい。また、現場に出ることは手間がかかってくるため、ツールを活用した情報収集の自動化、情報の可視化、情報の共通化も同時に行っていく。
- ・ HPは、操作性があり利用費用も安いサービスに変更し、利用者から意見をもらいながら内容の改修も行っていきたい。例えば場所のニーズがあれば、そういった情報を先に掲示していく、新たな取り組みが広がった時に新しいセクションを設けるなど。
- ・ Facebook のリーチ数を増やすためのフォロワー増加、LINE の活用も行っていく。
- ・ 参加できる市民活動の情報提供をしっかりと行っていきたい。「こういう団体があります、活動がありました」だけではなく、次のアクションにつながるような活動の参加機会、そういった情報をまとめて公開していく。
- ・ リーチ層の拡大として、若い移住検討者、移住者の方と一緒に活動に参加していただくように働きかけていきたい。また、地域に貢献したい起業家や企業も一定数いるので、営利目的ではなく市民活動に賛同したりやっていきたい方を巻き込んでいく。
- ・ センター施設について、現状は維持した上で、現在物置やロッカーとなっている部

分を省力化しフリースペースを拡充していきたい。作業に使用するだけでなく、コミュニケーションラウンジという形で、施設に来たら何かしら情報がやりとりできるような形で設置したい。

- ・団体が抱える課題としては人材に関する課題が大きい。具体的には、後継者が見つからない、団体内での情報共有、活動の意義等が言語化されていないといった、活動が進んでいき変化する中で再共有する必要がある部分などをサポートしていく。
- ・言語化した上で新しい参加者を集めていくというところもサポートする。サポートはセンターだけではなく、他団体との意見交換や関係の構築、人材のシェアという観点もあっても良いと思っている。
- ・団体自身がわかった上で進めていくというプロセスが大事なので、「やりましょう」だけではなく、対話のもと、状況を理解した上で進めていただくということを大事にサポートしていきたい。
- ・団体の HP 作成サポートも行う。技術的なサポートだけではなく、HP に記載する内容を考えるにあたって、団体の意義、活動内容を整理するといったところと行ったり来たりしながら、活動が存続する・新しい活動者が賛同してもらえるような広報・団体の情報の言語化をサポートしていく。
- ・コーディネートについては、①他中間支援組織との連携、②課題に紐づくようなテーマ別の交流会の実施、③市民と市との接点創出、④協働を生むフェスの実施を行っていく。
- ・職員の選考については、「市民活動やセンターの意義を理解し、具体的な事例をもって表現できる人」というところを大事にして採用する。
- ・従来の運営をベースとした上で、それ以上に、現場に出ていき、学んだことを市民に還元し、市民・市も含めた関係セクターとともにセンターも成長し互いに高め合っていきたい。
- ・鎌倉市民一人ひとりの歩みに寄り添い、場づくりと縁つなぎをすることで、鎌倉の多様な地域課題をコミュニティの力で解決し、理想のまちづくりの実現をこの3年間で実施していきたい。

#### 【質疑応答】

委員：当初提出の書類だと組織図の人数と予算書が違い、1.5人でどう実施するのかと思っていたが、本日の配布書類を見ると鎌倉2人、大船1.5人となっている。ただ、人数が変わっているにも関わらず人件費総額がほぼ一緒である。人は組織図通りの配置なのか、それに対して人件費は足りているのか伺いたい。

受付番号2：配置人員は構成図と一致させている。人件費については、本日お配りした資料では人件費の単価を下げている。最低賃金+ $\alpha$ で、最初は+ $\alpha$ の部分が多く見積もっていたが、そこを下げている。ただ、こういった仕事をやりたい人はたくさんいるので、賃金は高くないが意欲のある方はこれで採用できると考えている。

- 委員：提案されている企画、コーディネートは実施出来たらいいだろうという思いはある。指定管理としては3年間実施することになるが、役員2人の会社で提案者をメンバーに入れますということはその2人のうちの1人がメンバーに入ってくるのか。そうではなくこれから人員をあてるのか。会社としてあまり規模が大きくない、起業したばかりで安定的な収入でもないというところが気になる。それを踏まえ、人員体制について伺いたい。
- 受付番号2：役員2名、業務委託で10名以上を契約している。プロジェクトごとに3～4名などのメンバーを割り当てて回している。今回についても既に一緒にやるメンバーはある程度決まっている。指定管理者に決まった場合は更に人を集めていく。
- 委員：一プロジェクトのイメージか。指定管理者は公共施設であり、公共施設を3年間運営していただくものなので、一プロジェクト的なものではないと思っている。
- 受付番号2：役員が事業責任者として立場をとる。それに対して事業担当者としてチームを組む。プロジェクトという表現は世代なのかもしれないが、一つの部署として責任をもって3年間実施していく。
- 受付番号2：この指定管理業務が我々のやろうとしていることとかなり重なっている。また、3年間、できればその先も取りたいと思っている。社運をかけたプロジェクトということで臨んでいる。
- 委員：自主事業計画がなしとある。また、令和元年度の損益計算書では2100万円の売り上げ、4万5千円の赤字とある。この2100万円は自主事業だと思いがいかがか。
- 受付番号2：今回の自主事業がないというのは、市民活動センターの運営に関わる自主事業のことを言っており、センターと関わらない法人の事業は実施する。
- 委員：元々の事業に追加して指定管理事業を行い、そこに人をあてていくということか。
- 受付番号2：4000人規模の大学のコミュニティグループの運営、シェアハウスを3件運営したりなど、ネットワークは常に拡大・維持をしている。同世代の仲間とも常につながりは持ち続けているので、その中から有望な人材を採用してきている。そこには自信がある。
- 委員：従来 of 事業に指定管理事業が追加されて重荷になることはないか。
- 受付番号2：今期力を抑えて運営してきたので余力を残している状態というのがひとつと、一緒に仕事をしたいという仲間たちが声をかけてくれているというのもあり、人的なリソースに不安はない。
- 委員：株式会社で利益を追求した事業をされてきたと思う。このまま株式会社で指定管理を行うのか。
- 受付番号2：組織を変えるということではなく、株式会社で受注する。株式会社という手段を取っているが、我々の目的としては社会貢献、自分のよりよい人生を

生きるために貢献するということを目的に運営してきた。その手段として株式会社という手段を取ったというだけのこと。

委員：事業計画の「街の印刷屋さんや他施設での印刷情報の共有」について。この項目はセンターのコピー機等機材の受付利用についてのものであるが、ほかの印刷さんと共有ということでは意味がわからないのでもう少し説明していただきたい。

受付番号2：前提として、従来行っている印刷のサービスは継続する。+αとして街の印刷できる場所の情報を共有することにより、市民活動団体がセンター外でも印刷できる選択肢を増やすということ。

委員：街の印刷屋さんで「センターでも印刷できる」ということを宣伝するということか。

受付番号2：「市民活動団体が印刷をしたい」といったときに、センターでも印刷ができます、その他にも印刷できる場所がありますよ、といった情報を提供するということ。

委員：センターではできない印刷のことだろう。

委員：それではセンターの印刷収益が落ちてしまう。

受付番号2：例えば腰越行政センターにもリソグラフがあり、安価で利用できる。街の印刷屋さんもコストが下がっている。我々は市民目線、活動団体の皆さんが1番だと考えているので、もちろんセンターの売り上げも維持したいと考えているが、外も安く使っていただいて、活動が活発になれば、センターの売り上げも落ちることなく運営できると考えている。

委員：センターの機器類を有効活用していただきたいということを問うていると捉えていた。それを踏まえてもう少し説明していただきたい。

受付番号2：仕様書にある内容はもちろん全てやろうと考えているが、優先順位があると思っている。今あるリソースを活用することは行っていくが、我々が第一にやるべきことはコーディネートや市民活動を促進することで、今の時代において紙の利用も価値があることだと思うが、それ以外にSNSやHPなどやれることはたくさんあると思う。そういったところで皆さんをサポート、応援していきたい。

委員：分析をしたうえで事業計画を立てており、とてもよくできた計画書だと思った。課題に対して解決策が出ており、実施出来たら本当に素晴らしいと思う。自主事業計画についてはさらっとしてるのかなと感じたが、よく見ると、自主事業になりそうな内容が指定管理事業に入っている。そういうこともあってあえて「自主事業はありません」と書いたのではと感じたが、いかがか。

受付番号2：指定管理に関することをメインでしっかりとやっていきたいと思う。迷ったのが、どこまでが指定管理業務でどこまでが自主事業なのかといったところ。明確に線引きがわからなかったが、一旦は指定管理業務に集約する

形で書かせていただいた。

委員：今までの事業と指定管理事業をしっかりと分けて実施し、会計も分けて行うのが良いと思う。

受付番号2：市のHPで公開されている現在の指定管理者のモニタリングの評価の中で、指定管理業務をしっかりとやってくださいということが特に書かれていたので、指定管理業務に集約する形で記載した。

受付番号2：現在の指定管理者の自主事業にはプロジェクターの貸し出しが収入としてあるが、今の時代プロジェクターを有料で貸し出すというのは、市民活動にとってマイナスではないかと感じる。我々としては指定管理料で購入し、無償で提供する。そこで売上げが減っても、市民活動の活発化につながるのではないかという思いでいる。

受付番号2：今の世代に必要なのは多様性だと思っている。若い世代だけではなく上の世代や色々な世代が手を取り合ってまちづくりをしていくことが大切だと思う。若い世代とのつながりはありつつ、これから上の世代とつながっていくことが必要だという会社としてのタイミングでもあるため、色々な世代の人をチームとして巻き込んでやっている。まだわからないこともあるが、吸収していく力は人一倍あると思う。色々な世代の声や意見を聴く3年間にしていきたいと考えている。

委員：以上で質疑を終了とする。

(受付番号2退出)

(3) 傍聴者退出

### 3. 指定管理者候補者の選定

(1) 採点表及び講評を記入。

(2) 事務局が採点結果の集計表を作成し、委員間で確認。

(3) 選定要領に基づき、応募者が選定基準を満たしたことを確認し、全委員の評価点の合計が第1位になった受付番号1を次期指定管理者候補者として選定することで、全委員了承。

(4) 結果を受けて、委員から、受付番号1に対する講評などについて意見交換を行った。

- ・従来の事業を継続するという視点だけではなく、時代の流れとともに変化する利用者のニーズに沿った取り組みを積極的に提案・実施すること
- ・「ICTの活用」については、現在の利用状況のみで考えるのではなく、若い世代が市民活動に新たに参加することを踏まえた上で、センター運営における積極的なICTの活用、登録団体へのICT支援を推進すること
- ・運営の仕方、組織の在り方を見直し、旧態依然とした運営にならないよう留意すること

以上